

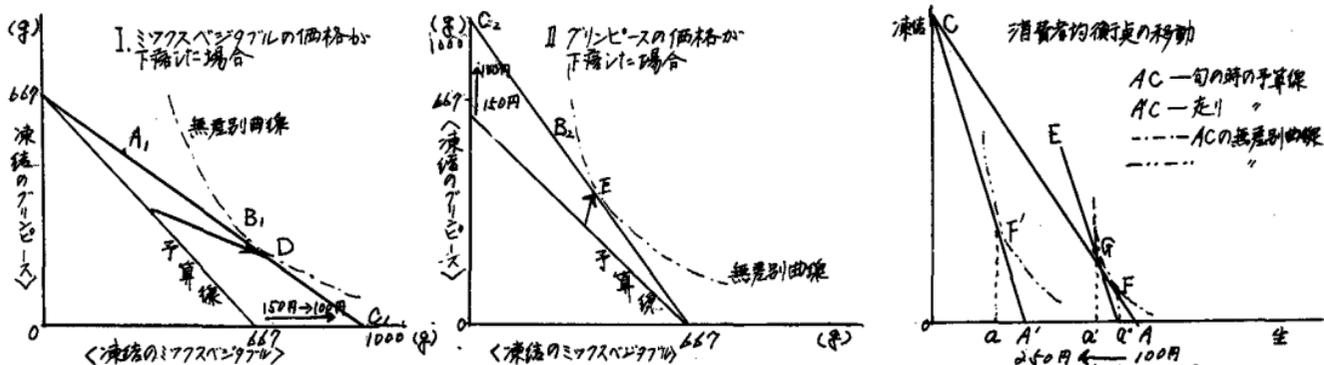
消費者行動の解析(その1)

- 価格・季節の変化における A・B 両財の所得効果と代替効果 -

実践大家政 ○ 斎藤加乃子 田中 栄 新村久美子 海津美代子

目的 本調査研究は、実態調査を通じて、消費者行動の理論、消費者選択の理論、消費者計画の理論を実証的に説明しようと試みるものである。

方法 調査の時期は、昭和廿年六月17日～六月23日(調査票配布)、六月24日～六月30日(回収)、留置法によつた。調査対象は東京都23区およびその周辺都市居住の一般を母集団とし、これより標本を無作為に100名を抽出し、被調査者は主婦とした。回収票は447票であつて、標本はコンピューターによつて集計処理を行つた。集計法は、単純集計、クロス集計、解析法は重相関・重回帰・因子分析・需要関数とした。



Cf. $y = \frac{\Delta x}{\Delta y} \cdot \frac{y}{x} = \frac{\Delta x}{\Delta E} \cdot \frac{E}{x}$ $y =$ 所得(支出)弾性, $x =$ 財の需要量, $E =$ 予算

• A → B 筈... $y = 1.004$
 • B → C 筈... $y = 1.029$

冬の時 ← 100円
 夏の時 ← 150円
 冬時... $y = 0.999$
 夏時... $y = 0.993$